



## 第 12 回もてぎ 7 時間エンデューロ 2015 感想

～サーキットを駆け抜ける～

人間文化学部 4 年  
高柴政希

日本グランプリなど様々なレースが開催される国際的なサーキット場が栃木県にあります。そう、「ツインリンクもてぎ」

です。この国際的なサーキット場の中を自転車で周回できるというイベントが、この「もてぎ 7 時間エンデューロ」です。普段は自転車で走ることができないサーキットの中を走ることが出来るというのは魅力です。

本大会は、2 時間、4 時間、7 時間の 3 種類のエンデューロがあります。なかなかエンデューロという言葉は聞き慣れない言葉だと思いますが、「耐久レース」と聞けばピンとくるのではないのでしょうか。例えば、4 時間エンデューロであれば、4 時間の間サーキット内を走りつづけて何周できたかを競います。このもてぎ 7 時間エンデューロはレースとして参加している方から、競技や練習の一環として、時間内に何周すると目標を決めて走る参加者、コスプレをして走り会場を盛り上げる参加者、家族、友人と一緒に走って思い出を作る参加者、様々な目的を持った参加者がいます。参加者がそれぞれの目的を持ち、年齢問わず自転車が好きなひとなら誰でも楽しめる自転車の大会です。また、このもてぎ 7 時間エンデューロは、参加方法が 2 つに分かれています。チームとして出場し、ピットで選手交代をして走る陸上競技のリレーのような方式で走る「チーム」と一人で制限時間内を走りきる「ソロ」です。



私は 2 時間エンデューロソロに出場しました。当日は天気があまり良くなく、レース途中でパラパラと雨も降ってくるような天気でしたが、スタートラインに着くと天気のことなんか忘れてサーキット場を走れる喜びで一杯になりました。普段は TV で見ているサーキットコースを自転車で実際に走ることができるのですからね。さて、走ってみると 90° コーナやヘアピンコーナーといったサーキ

ットならではの道が所々にありました。日常のサイクリングでは走ることが出来ないような道に、心を躍らせて 1 周 4.8km のコースをあっという間に走り抜けてしまいました。サーキットのため道にでこぼこ等もなくペダルを踏めば踏むほど加速していきます。信号も

なく車も走っていないので道も広く使えます。レースではないとはいえ、サーキットという会場と大勢の自転車乗りの人が集まった環境に、自然にどんどんペースが上がっていきます。

しかし、爽快な気持ちで走っていられたのも3周目まででした。最近、自転車に乗れていなかったというのもあり、一気に疲れが襲ってきました。また、途中でチェーンが外れたりなどとアクシデントもあり、大幅にペースを落としてしまいました。しかし、ソロでの出場なのでピットに入り休憩するのも自由に行うことができます。ピットに入り、補給食を食べて一度気持ちを切り替えてからまた再スタートします。しかし、なかなか足の疲労が回復せず、思うように走ることはできません。そこで、ゆっくりなペースに切り替え、自分の足で少しずつ2時間エンデューロのタイムリミットまで走り続けました。結果は、2時間エンデューロの中で218位。2時間で11周を走りきることが出来ました。もともと、10周は走りたいと目標を立てていたのが目標達成出来たので嬉しかったです。しかし、もう少しエンデューロにむけて準備ができていたらもっと楽しく自転車に乗ることが出来たのではないのかなと反省しています。



次に挑戦するときは、自転車の練習を重ねて今回の記録である11周よりも多く走りたいと思います。「もてぎ7時間エンデューロ」は、サーキットを自転車で走りたいという願望を叶えてくれると共に自分の力を試す意味でも良いイベントだったと振り返ります。皆さんも自転車の耐久レース「エンデューロ」に興味がありましたら、是非参加をしてください。きっと楽しい1日になると思います。